

## 青年国際交流事業の効果検証に関する検討会（第3回）議事要旨

1 日 時：平成27年6月18日（木）17:00～19:00

2 場 所：中央合同庁舎第8号館8階特別中会議室

3 出席者：

（委員）牟田座長、池上委員、井上委員、白木委員、竹尾委員、源委員

（内閣府）安田内閣府青年国際交流担当室長

矢作参事官（青年国際交流担当）

大部参事官補佐（青年国際交流担当）

（オブザーバー）

日本青年国際交流機構副会長 大橋玲子氏

4 概要：

（1）開会

（2）事務局説明

- ・ 第2回検討会における各委員からの御指摘、御意見を踏まえ、報告書の案について、配布資料に基づき事務局より説明。

（3）意見交換（主な発言）

- ・ 個人をベースに置いたようなデータ設定の仕方、即ち最初に個人が設定した目標についてデータを集積する方法を検討してはどうか。個人の能力の伸び等、後々分析できるのではないか。
- ・ フェーズ、フェーズでそれぞれの参加者が成長するという前提に立って、切りのよいところで振り返りをしてもらい、能力の伸びが大きかった人の書いた記述を時系列に並べることで、青年の成長過程を理解しやすく伝えることができるのではないか。
- ・ 個人の目標はプロセスで変わっていくことがありうる。また、事前に準備をしたのか、問題意識をどれだけ持ったかによって効果が違ってくる。
- ・ ピア・フィードバックはある程度はフォーマットをつくっておかないと、一般化するの難しい場合がある。
- ・ 事業としてやっているからには、ある程度の方向づけを示すなど、目標の設定がしやすくなるような仕掛けをつくってあげる必要があるのではないか。
- ・ 世界のスタンダードの中に自分を置いたときに、自己認識が新たにできる。同時に、社会認識という側面も高まったり、変わったりすることがある。乗船後、自分がどれだけ狭い目標を立てていたのかに気づくなど、目標が変わってもよいのではないか。目標というか、自分が問題だと思っていたものとは違うところにもっと大きな問題があったと理解することは非常に重要ではないか。

- ・ 1年、5年たったときに、事業直後に感じた目標をどれだけ追求して達成できているのか、さらに自分で内省するなり、文章化することによって、問題点など、様々なことが明らかになるのではないか。
- ・ 事業直後の自己評価と、1年後や5年後に行うアンケート、調査がつながりのあるものになると良いのではないか。
- ・ 例えば、事後活動として何年後かにフィードバックする機会を織り込んでおくなど、同窓会組織を上手に使ったデータの集め方ができれば良いのではないか。
- ・ 事業全体の評価は、そもそも事業がどういう変化を想定しているかを踏まえて、共通の指標を立てる必要があるのではないか。
- ・ 効果測定を考えながらプログラムのあり方を考え、最終的には少し方向性を変えた方が効果的なものになる、という形で報告書をまとめたほうが、この事業を充実させる際の訴求力になっていくのではないか。
- ・ 参加青年のグローバルリーダーに必要とされる諸能力として、個々のスキルだけでなく、問題意識の強さや視野の広さ、日常の課題の捉え方など、よりベーシックな能力も重要ではないか。
- ・ リーダーを育てるという観点からすると、自分の国を客観的に見られるか、自分と他者をどう見ることができるかという自己発見を評価する指標を設定できないか。船に乗って自己発見したときにどういう変化があるのか、幾つか代替指標を立てて、その選択肢で選ばせるというのは可能かどうか。
- ・ 定性情報の扱いについて、テーマなどで分類して報告書に記載できると、より理解しやすいのではないか。
- ・ 報告書に記載する改善内容について、なぜその意見が出たのかという根拠となるデータや情報は入れるべきではないか。
- ・ 事業効果を高めるうえで、参加青年の属性は多様であることが望ましいことは、一般的には理解できるが、その理由を記載するとより説得力がでるのではないか。
- ・ 地方出身者増加のために、何らかのインセンティブ、地方出身者の負担が減るような工夫があるとよいのではないか。
- ・ 地方の企業、農協、青年団などの団体や組織から推薦してもらうために、参加青年が事業に参加することのメリットを評価やフィードバックで上手くアピールすることが重要。
- ・ 社会人参加について、選抜時点で多少語学力が低い場合に、事業参加までには語学力を向上させることで参加を促してはどうか。

(4) 安田内閣府青年国際交流担当室長 挨拶

- ・ 委員の皆様には、青年国際交流事業について、短期間に熱心なご議論をいただき、数多くの非常に有益なご意見をいただいたことに、心からお礼申し上げます。本検討会においては、とりわけ、グローバルユースリーダー育成事業を中心として平成2

6年度の国際交流事業について効果を検証していただき、また今後の適切な効果検証のあり方等について、しっかりと方向をお示しいただいた。こうした御意見を踏まえ、今後、新たな効果測定指標の設定等、具体化を早急に進める。また、事業プログラム、参加青年の成長に資する個別評価方法、リーダーシップ、多様な青年の参加などについても、貴重な御意見を多数いただいた。こうした御意見を踏まえ、今後、事業の更なる改善に向け努力していく。引き続き内閣府の青年国際交流事業にご指導、ご支援をいただきたい。

(5) 閉会

- ・ 報告書については、参考資料等についても整理した上で、近日中にまとめることとする。

以上